



JAC北九だより

No.78 (平成28年 第4号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行:公益社団法人 日本山岳会北九州支部
 支部長 関口 興洋
 事務局: 行橋市東泉3-18-10
 竹本 正幸方
 TEL-FAX 自宅 0930-28-9611
 携帯 090-6739-9251
 編集人: 事務局(森 義雄)
 印刷: 山口県山口市水の上町2-25
 内 藤 製 本 所

「山の日」制定記念in福岡(北九州)2016 「山の文化展」に観客2000人!

13499 伊藤 久次郎



江副区長(右から2人目)を迎えて開会式を行った

国民の祝日『山の日』制定記念イベントの一つとして、支部では8月3日(水)から9日(火)までの1週間、北九州市門司区の門司港レトロ・旧門司税関ギャラリーにおいて「山の文化展」を開催した。

今年はマナスル初登頂から60年目にあたり、さらにマナスル登山隊の横有恒元隊長が登頂報告のため立ち寄った当地の風師山(かざしやま・365m)にその記念碑があることから、マナスル初登頂と風師山の関係や幅広い公益目的を持つ日本山岳会の足取りを通して、山の文化を考えようと計画した。

この計画は、約1年前からカネのかからない場所探しから始め、当会場を見つけることができた。

まずオープニングは、3日午後からであるが、展示作品の搬入をその日の午前中でやってしまった。

そして午後1時、竹本事務局長の司会で開始、関口支部長と江副門司区長のあいさつ、テープカットと続き、日向副支部長の締めで無事終了し文化展の開会となった。

開会となった。

文化展の目玉となる写真展は、槍ヶ岳山荘のオーナーで山岳写真家でもある「穂苅康治写真展」



写真: ギャラリー2階穂苅康治写真展会場

と、北九州支部会員で山岳写真家の「大谷城写真展」を会場中央に配置した。穂苅氏の写真は横1m近くもある大きなパネルで、全部で8点。美しい北アルプスの風景に観客も見とれ、会場の中心を飾るにふさわしいものであった。一方の大谷城氏は、現在90歳とご高齢で、出品された写真は20年くらい前に撮られたものが多く、九州から北アルプスまで幅広い作品10点が同じ会場に並んで展示された。

それに付随するように一般支部会員による自慢の写真展も開催。9人から27点の出品があった。

絵画展の中心は版画同好会の作品



写真: 一般支部会員と家族の作品展会場

山の絵画展では、油絵2点が会員家族の1人から出品された。そして、中心をなしたのが支部版画同好会の会員6人による作品16

点であった。白黒から多色木版、ハガキ版から大作まで山を題材にした作品ばかりで、観客も興味を持って見ていた。

山の古道具展と山の歴史展

支部会員から出品していただいた山の古道具34点は、会員が昔、使用していたもので、若い人には物珍しそうであった。

そして、当地にある風師山には、マナスル登山隊長であった横有恒元日本山岳会会長が、マナスル初登頂後の翌年1957年10月28日に訪れた。その時の感慨を述べた記念碑が設置された。風師山に登った横有恒の当時の新聞記事や、「日本隊マナスル征服」の当時の新聞も展示。また日本山岳会と北九州支部の歴史などをパネルで紹介するとともに、映画「マナスルに立つ」を会場で1日3回上映した。

1週間で入場者2007人

会場の「旧門司税関ギャラリー」は、赤煉瓦づくりのレトロそのままの建物で、今まで有名人の絵画展が何回も行われました。建物の入口付近にパソコンで創った看板を掲げ、この看板を見て興味を持ち文化展に入ったというアンケートの結果でした。入場者も一日平均286人、総数2007人ということで、地元の江副門司区長も予想外の多さに驚いたそうです。

期間中、機材の提供や準備など多くの支部会員にご苦勞をかけました。また19人の支部会員に当番をしていただき有り難うございました。プロデューサーとして御礼申し上げます。



写真：初日の作品搬入飾り付と開会式に参加したみなさん

8月11日「山の日」制定記念 家族登山 キャンプ場で「スイカ割り」と「火起こし体験」

14264 丹下 治



写真：風師山(風頭)

「山の日」制定を記念して一昨年、昨年とプレ山行を行ってきたが、今年は本番。

一般登山者および家族・市民を対象に家族登山を計画しました。

JR門司港駅を午前9時出発。前日のメディアの報道で、エントリーしていない当日飛び入り参加者もいた。旧九州鉄道の赤レンガ本社跡(かつては九州の鉄道全体を管理し、現在は鉄道記念館として市民に親しまれている)、三宣楼(かつての高級料亭で、財界人、軍人、政治家、文人墨客で大いに賑わった)、旧毎日新聞西部本社と旧社員寮「醍醐」(横有恒元会長が風師山登山の際、宿泊した旅館跡)を経て清滝公園より九州自然歩道を歩く。

昨年逝去された直木賞作家佐木隆三氏の旧宅「風林山房」(山口県出身の直木賞作家古川薫氏の命名)の下を通り、豊後の大友氏が山口の大内、毛利氏と戦った門司合戦の古戦場三角山城址(194年)登山口で小休止。更に歩を進めると紅葉の名所「もみじ谷」

入り口に到る。こまめに水分、エネルギー補給を行う。この先には高浜虚子の句碑「風師山 梅ありと聞く 登ぼらばや」がある。やがて車道の終点に到着。登山道に入って直ぐ右に福岡黒田藩の家臣「宮川尚石」の歌碑がある。詳しいことは判らないが、兵法者・軍学者で「たつ雲の袖をかざしの山風にちりものこらめ 峰の紅葉」と詠まれている。

午前11時風師山風頭到着。内藤会員、森会員により参加者全員にアイスクャンデーが配られる。同行取材の地元FBSテレビの「頂上の感想は・・・」との質

問に参加した小学生の答えは「おいしかった・・・!!」風頭頂上(364.3m)にある横有恒元会長の記念碑、略歴碑の説明やかかって風師山一帯が「西脇野湖」という広大な淡水湖であったが地殻変動で海となり、更に隆起して山となった。そのため、山頂には水中生物、貝の化石があることなどを説明し矢筈山へ向かう。もっとも子供たちにとってはアイスクャンデーの冷たさ、おいさが一番の人気であった。

矢筈山キャンプ場への道はかつて陸軍の要塞地帯であった名残です。二等三角点(362.2m)のある風師山、さらに南峰を経て矢筈分かれより急坂を下る。矢筈山キャンプ場への車道へ出るとキャンプ場は近い。少し歩いてキャンプ場に到着、管理人の説明、注意を聞き、大塚製菓より寄贈された経口補水液(OS-1)を配る。一年中、気温16度Cの地下弾薬庫跡に入りクールダウンする。大好評!! 関門海峡の絶景を眺めながらベンチで昼食をとる。



写真：スイカ割り

おいだ。そのあとは割った冷たいスイカで喉をうるおし、後は「ロクロ」を作ったの「火起こし体験です」。「ポツ」と火がついた瞬間は全員で拍手、



写真：火起こし

昼食の後は、子供たちお待ちかねの「スイカ割り」大会。前日よりキャンプ場の冷蔵庫で冷やして大人も楽しめたイベントでした。このイベントを企画していただいた風師山早朝登山会代

表の菱田さんに感謝です。

午後2時前、下山開始。小森江子供の森公園で点呼、参加者全員の無事を確認して解散をしました。また来年逢いましょう。

今年の参加者は「北九州市政だより、門司版」と「毎日新聞 北九州版と下関版」で呼びかけた結果、94人(5歳～84歳)の参加となった。因みに昨年は51人、一昨年は24人でした。また、毎日新聞とF B Sの同行取材、報道もあり周囲の反応も上々でした。

最後に、風頭頂上の横有恒元会長の記念碑には「この頂きに立つ 幸福の輝きはこれをとらふる 術を知りし山人たちの 力によるものなり 昭和32年10月 横 有恒」と記されている。

当日サポートいただいた会員のみなさま、暑い中ご苦勞様でした。

12月11日(日) 北九州支部 忘年の集いと山行計画

◎「忘年の集い」のご案内

1. と き 平成28年12月11日(日) 17時～19時
2. 会 場 「ラメール・雅」(門司駅北側)
TEL : 093-381-2989
北九州市門司区大里本町2-11-33
交通手段：門司駅北口より海側に徒歩7分
3. 会費：5,500円
4. 会場ではオークションを行います。
登山用具・衣類等使わないものがありましたら供出お願いします。
・支部友の方もたくさんのご参加をお願いします。思い出の山や来年の計画等楽しく語り合い、情報交換をしましょう。
5. 申込み期限：12月3日(土)
6. 申込み先 事務局
竹本正幸(携帯090-6739-9251)
森 義雄(携帯090-4475-7799)

◎山行計画

- 1 と き：平成28年12月11日(日)
- 2 集合場所：小倉北区妙見神社境内

- 3 集合時間：午前10時30分
- 4 行程：神社境内→登山口→砲台山→足立山
妙見神社上宮→小文字山→登山口
(所要約4時間)
- 5 申込み期限：12月4日(日)
- 6 申込先担当：縄手修(携帯090-2854-3149)
- 7 登山終了後、「ラメール・雅」までバスの出迎えあり

平成28年度日本山岳会 年次晩餐会のご案内 通常会員のみが対象です

- 1 と き 平成28年12月3日(土)
- 2 会 場 京王プラザホテル(東京都新宿区)
- 3 案内方法が今年から変わります
案内状が10月下旬の会報「山」に同封して送られます。
出席希望者のみ振込用紙で会費を振り込むこととなります。
詳しくは、会報「山」10月号をご覧ください。

平成28年西日本・支部合同会議報告 14852 竹本 正幸

1. とき：平成28年9月24日(土)～25日(日)
2. 場所：大阪アカデミア
3. 出席者：支部長(関口興洋)、事務局長(竹本正幸)
4. 日程：
 - <24日>会議 13:00～17:30
懇親会 17:30～19:30
 - <25日>会議 8:30～12:00 昼食後解散

1日目

(1) 会長あいさつ

マナスル初登頂60周年記念や「山の日」行事など多くの場所でイベントが行われました。

日本山岳会は財政的に非常に厳しい状況にあり、再生委員会で準会員制度等一步一步進めているところです。大事なことは、財政面で安定した公益法人として存続すること、本部、支部、支部同士のコミュニケーションを密にすることにあります。

(2) 会務報告

会員の現況

- ・会員数：5,020人、平均年齢：68才
- ・増内訳：入会：237人、復活5人、平均年齢：51才
- ・減内訳：物故者59人、退会者158人、除籍者41人

◇北九州支部

所属会員数：27年5月：74人、新入会員5人
28年6月：71人、平均年齢：69才、
永年会員：4人 新入会員3人
23年8月：90人、19人(21.1%)

※支部20人未満は解散となる。

◇結 論

- ・「新会員を増やさなければ、日本山岳会は現在の体制を維持できず崩壊する。」という危機感の共有が必要。
- ・会員増加策を会の第一目標とすることが必要。
- ・準会員制度を会員増加策の起爆剤とすることが必要。
- ・新人募集のために日本山岳会の知名度があがるようなイベントを開催する。
- ・支部における登山教室は、会員増強の有効な手段となることが実証されている。
- ・支部活動と同好会の活動を活発化する必要がある。
- ・支部助成金は、会員増加策を目的とした支出に重点配分を行う。
- (3) 支部助成金等の支給について
 - ・29年度の支部助成金は、会員一人当たり300円減

の2,000円とする。

- ・新設の準会員に係る運営交付金及び事業補助金は、会員と同額の2000円とする。

◇新入会員獲得報奨金

- ・新入会員については、一人当たり4000円支給を今後も続ける。
- ・準会員の獲得に対しても会員と同額の4000円を支給することとする。
- ・準会員から会員に移行した場合も新入会員獲得報奨金として、再び(同一人に2回となるが)4000円を支給する。

(4) 準会員規程

- ・入会金5,000円、年会費6,000円
- ・入会后3年以内に通常会員に移行しなければならない。移行しない場合は、準会員の資格を失う。
- ・準会員は、会報「山」の配布を受けることができる。
- ・各種の研修、行事、集会等に参加することができる。
- ・総会における議決権はない。役員にはなれない。
- ・晩餐会には出席できる。「山岳」が必要ななら3500円+消費税。

(5) 新会員証の発行と会員証取扱規程

- ・提携施設(山小屋、スポーツ用品販売店等)での割引等を受けることができるように提携施設の拡大を図る。
- ・ラミネートではなくプラスチックカードになる。
- ・既会員へのJ A Cカードの発行
J A Cカードの発行を希望する者は郵便振替払込取扱票に必要事項を記載し、本部事務局に発行料1000円を送金する。
- ・有効期限は3年とする。

2日目

(1) 「山の日」事業への取り組み

各支部発言

(2) 支部ブロックの取り組み

九州ブロックは、平成29年5月20日～21日に5支部懇談会を開催予定。

(3) 支部事業報告と会計報告の留意点について

(4) 連絡事項

- ①個人情報の取扱と会員名簿作成について
- ②支部主催登山教室等における旅行業法上の留意点
- ③年次晩餐会案内方法の変更について
- ④支部会費滞納者について
- ⑤寄付金の取扱等について
- ⑥第4回登山教室指導者養成講習会実施要領
- ⑦平成29年全国支部懇談会の開催について

以上

氷壁のモデル“石原國利氏”を訪問!

13499 伊藤 久次郎



写真：石原國利氏(右から二人目)を囲んで

井上靖の小説「氷壁」のモデルとして知られる石原國利氏と偶然にもお会いすることができました。

それは、昨年(平成27年)12月9日のこと、その時、日本板画院の福岡支部展を直方の谷尾美術館で開催中でした。私もメンバーの一人として版画を5点出品展示していました。その展覧会を見に日本山岳会北九州支部の仲間たち(原さん、丹下夫妻)がその日来てくれたのです。そして私も含め4人で昼食に出かけた折、美術館の直ぐ近くに、朝ドラに出てくるような100年以上の歴史を持つ古びた家があり、その出入り口に石原國利氏の表札が掲げられているのを丹下さんの旦那さまが発見!一同びっくりポンでした。このまま通り過ぎるのはもったいない!とすぐに石原氏を訪ねてみることにしました。幸い石原氏はご在宅でお会いすることができました。

石原氏は、日本山岳会東海支部創立時からの会員で、第2代目支部長(昭和39年~昭和42年)を務め

られ現在85歳です。石原氏のお話などから「直方の現在の家は石原商店(株式会社スズラン本社)として築100年以上になる。現在は、住まいを福岡県篠栗町に構え代表取締役会長として毎日JRで通勤している」とかで、その元気さに驚きました。通された大きな木造建築家屋の3階と思われる貫禄ある座敷と書籍やヒマラヤの写真などが飾られた書斎を見ることができました。

そして翌日、石原氏は美術館へ私の版画を見に来てくれました。本当に嬉しいことでした。なお、

石原氏がモデルとして書かれた井上靖の「氷壁」は、昭和30年1月に穂高で起こったナイロンザイル事件を題材にしたもので、映画やテレビドラマにもなりました。詳しくは「石岡茂雄が語る、氷壁・ナイロンザイル事件の真実」を書店で買って読んで下さい。また、関係資料はルームにも保管しています。

(追伸) 美術展の期間中に沢山の支部会員が、遠いところからお出でいただき有り難うございました。御礼申し上げます。

(続追伸) なお、この原稿は本年1月に書いたもので、支部報担当者が何らかの原因で掲載を忘れていたものと判明しました。改めて掲載して頂くことになりました。(2016.10)

10月8日~10日

広島支部との交流会が開催されました



10月8日から広島支部との交流会が、広島県芸北高岳周辺で開催されました。

詳細については、次支部報でご報告させていただきます。

個人山行特集 頑張って登りました！！

7月19日(火)～7月24日(日)

北海道大雪山系旭岳～トムラウシ山縦走と十勝岳登山 大自然を求め5泊6日の山旅へ

15616 奥田 スマ子



写真：トムラウシ山

7/19(火) 天候：晴れ

現地へ出発する前のトレーニング山行は九重山と英彦山。どちらも雨にたたられた。当日の天気は気になっていたが直前の予報は晴れマークでひと安心。

福岡空港から新千歳空港へ。夕方には宿泊地の旭岳温泉に着いた。明日から3日間で45キロの歩程。

ロングトレイルに備えてザックの中身を必要最小限にまとめ、宿の夕食で栄養をつけ早めに就寝する。

7/20(水) 天候：晴れ

始発のロープウェイで標高1600mの姿見駅に到着。宿のおにぎり弁当で朝食を済ませ、準備をして出発する。旭岳への登りは傾斜がきつい。途中白い噴煙が噴き出すのを見て、この山が活火山であることを実感した。金庫岩はあれか？などと思いながら山頂に着いた。山頂は登山者も多く広々としていた。

南側はガスが立ち込め360度の展望は望めなかったが、我々が進む方向は視界が開けていた。連なる山々の山座同定を試みたりして展望を楽しんだ。ここからは下りの道。長い雪渓下りは尻セードで一気に下降。その行為が楽しくて思いっきり笑い、それまで何となく感じていた「歩けるだろうか」という不安が吹き飛んだ気がする。

噴火口であったであろう赤茶けた山肌、遠く山々の緑と雪渓の白いコントラストが美しい。花も多種多様。遠くに目をやりヒグマを探す男性たち。花に興味津々な私たち女性(特に竹本加代子会員は花を見る目が違います)。ガレ場を登ったり下ったりを繰り返しながら白雲岳分岐に到着した。しかし白雲

行程

7/19 福岡空港11:30→新千歳空港13:50→旭岳温泉19:00

7/20 旭岳ロープウェイ山麓駅6:00→姿見駅6:10→旭岳8:58→白雲岳避難小屋13:40

7/21 白雲岳避難小屋4:55→忠別岳8:00→化雲岳12:30→ヒサゴ沼避難小屋13:30

7/22 ヒサゴ沼避難小屋4:35→天沼6:35→北沼8:36→トムラウシ山9:15→短縮登山口15:20→トムラウシ東大雪荘16:00

7/23 東大雪荘4:00→望岳台7:05→十勝岳10:55→望岳台13:55→上トナム泊16:00

7/24 上トナム8:30→新千歳空港14:35→福岡空港17:05

岳山頂一帯はあいにく視界が悪かったので山頂に往かずに先を急ぐこととする。ここから白雲岳避難小屋は近い。ハイマツ帯の道を下り、丘の上に建っている避難小屋に到着した。小屋からは目指すトムラウシ山が遠くに見えた。小屋は満員だったけれど、疲れたからだに美酒あり野菜ありの夕食はとても美味しかった。19時就寝。

7/21日(木) 天候：晴れ

避難小屋の朝は早い。3時に起床が始まった。我々も出発の準備に取りかかる。朝食時「たくさん食べる」とCL竹本会員。みんな食欲旺盛である。幼少の頃、私は虚弱体質で物が食べられずに親に心配をかけた。両親がもし生きていたら私の変化を喜んでくれるに違いない。

山行2日目のコースは高原歩きのような印象を受けた。歩いて来た道、これから行く道がよく見える。池塘や沼、爽やかな空気、この中にずっと留まっていたい気持ちになる。特に化雲岳からすぐの化雲平はチングルマやコマクサの大群落が広がっていたのである。三人が言うには、このような大群落は本州にはないらしい。いつまでも見てみたいが先を急ぐ。ヒサゴ沼避難小屋は定員30人。雪渓を駆け下りて小屋に到着、何とか寝床が確保できた。(2名テント、1人ツェルト泊)



写真：十勝岳

7/22日(金) 天候晴れ

今日は16歳の道のりを歩くことになる。朝食を済ませテントを撤収して予定より早く出発する。出発直後、ヒサゴ沼にかかる雪渓をトラバースしなければならぬが、早朝で雪渓は凍りついている。誤って転倒するとそのまま滑落して沼に落ちる危険がある。ここはCL竹本会員のあとに付いて慎重に通過した。しかし、今度は急斜面の雪渓登りが待っていた。靴を蹴り込みながら登り、ようやく稜線に出た。岩がごろごろした景観がひろがり、昨日までとは景色がまるで違う。そんななかで「日本庭園」は岩、花畑、天沼の景色がすばらしかった。人が作庭するとき、自然をお手本に作庭するというのが納得できるのである。

巨岩の「ロックガーデン」。噴火をくりかえして

楽しい思い出を作りました!

～「やっと叶った念願の山」～

14852 竹本正幸

トムラウシ山は、若いころから気になる山名でした。いつか登りたいという気持ちが常にあった。数年前の大量遭難事故があったからは、一躍有名になった。

旭岳からの縦走登山となると、難易度は5になっている。年齢からくる体力低下。行くなれば今しかない。足並みがそろい長時間歩けるメンバー4～5人を探した。昨年の後立山縦走(五竜岳～針ノ木岳)のメンバーに声を掛け、進めた結果今回のメンバーが決まった。

悪天候を想定して、雨の九重山テント泊や英彦山での装備チェック。体力、装備、食糧などについて納得のいくまで話し合った。いかにして荷を軽くするかも各自研究していた。

道迷い防止、熊対策としてGPSと熊除けスプレーも準備した。

今回は、天候に恵まれたこと、事前の準備と各自

きた山。アイヌの人々は神々の遊ぶ庭と呼んで崇めてきたという。北沼からは眼前にトムラウシ山が大きく聳えていた。いよいよ最後の急斜面を登り、巨岩が積み重なった山頂にようやく辿り着いたのである。最後の目的地のトムラウシ山は長い道のりながら楽しい道でしたが、短縮登山口までの下山はアップダウンのある後半、忍耐のひとつことでした。

7月23日(土) 天候晴れ

オマケの十勝岳山行。昨夜は無事縦走できたことを喜び合い熟睡。疲れも取れて朝から快調。歳弘会員の運転で4時間掛けて登山口へ到着した。多くの登山者に混じり、左側に美瑛岳を眺めながら山頂を目指す。背中のザックも軽い。会話も弾み山頂は近かった。

今回の山行は天候に恵まれ、大雪山系の大自然を満喫できました。自分と向き合い、机上では学べないたくさんの方のことを学習しました。

仲間の支え、家族の協力、そこにある自然、すべてに感謝です。

参加者：4人

竹本正幸(CL)、竹本加代子、歳弘逸郎、奥田スマ子

が十分にトレーニングをしていたことが成功につながった。あえて挙げるなら、ヒサゴ沼雪渓のトラバースは、早朝のため神経を使いながらステップをきざんだ。終わってみれば「天候に恵まれて良かったなー」の一言に尽きる。

～夢のような四日間でした～

15416 歳弘 逸郎

いつかは北海道の山にと思っていたところに、竹本会員から約一年前にお誘いを頂き、二つ返事で参加の気持ちをお伝えしました。

7月19日 千歳空港に降り立ったときは少し雨が降っていて、これからの山行きを心配しましたが、20日には雨もあがって、雨具を着用することはありませんでした。

ロープウエーの姿見山頂駅から登山開始です。北の大地を吹き抜ける風、流れる新鮮な水、豊かな雪渓、広大なお花畑、地球の息吹を感じさせる大地から噴き出る水蒸気、登山者の要求を全て満たしてくれる大満足の大雪山(旭岳～トムラウシ縦走)と十勝岳の山行でした。

～歩いた。歩いた。北海道のだ真ん中！ 14853 竹本 加代子

チャンスはそうないと思った。今行かないでいつ行くのと言う思いだった。

天気と体力が一番の不安材料であったが、全行程の天候が晴天で何よりも幸運であった。

旭岳から段々と近づいていくトムラウシ山を眺められたことも指呼する山並みも心のゆとりもこの天気のお蔭であった。「大雪山に登って山岳の大きさを語れ」と大町桂月のことばにあるが、表大雪は本当にでっかく広い台地であった。そんな全長45%の全行程を歩けたのは自分の体力でも気力でもなく神々が遊ぶ庭を歩かせて頂いているという気持ちで常であったからかも知れない。

一つ大変であろうと思っていたのは、エキノックス対策である水の煮沸である。四人分の当日の夕食・翌日の朝食・一日分の行動用の水汲みと煮沸で

あったが、スムーズに確保でき何も問題なかった。思い返せば楽しいことばかりである。

白雲岳避難小屋で見た月明かりに浮かぶ屹立した王冠の山トムラウシ山にウツトリ。

ヒサゴ沼のテント場では月の光が沼を照らし沼風で揺れるさまにウツトリ。辺りには誰もいず独り占めの空間であった。大雪山の花といえば、その群落のスケールの大ききで見渡す限り花・花・花である。高根ヶ原のコマクサの群落は、私のイチオシの花でこれほどのコマクサを見たことがあっただろうか。化雲岳の「神遊びの庭」はどこまでも続くチングルマやエゾハクサンイチゲの群落。語りつくせないほどにたくさんの風景や花を心に焼きつけた45%のロングコースは疲れていても目に優しい風景ばかりであった。

武永会員には計画中に車の回送・ガスボンベ・ヒグマ対策などアドバイスを頂き感謝。

9月17日～19日 京滋の山旅

11454 井上 佑



写真：ヒノコ小屋

今年の3月20日、内藤会員が京都ゼニーツクラブの新宇さんとくろみ小屋で一泊し、九州の山に向かった。私は秋吉台帰りにエコノミークラス症候群の腰痛で、親しくお相手ができなかった。ゼニーツはチェコ語で「天頂」の意味である。そのお返しで、今回、武奈ヶ岳(1224m)を目指し、ヒノコ小屋に2泊した。

ヒノコ小屋が在る京都北山は若い頃から行きたい地区であった。鬼ヶ城と一緒に登った今西錦司先生が旧制三高の頃から、ヒノコ小屋の北方、皆子山(京都府最高峰972m)を踏査し、本を借りたことがある琵琶湖研究所の吉良竜夫先生(生態学)も京都大学の時病気のため、白頭山に行けずに北山を歩き回った。北山杉は良好な建築材で知られていた。北山クラブは金久昌業が昭和32年に創立したもので、ヒノコ小屋は昭和50年に会員の手仕事で建てた。北山クラブが停会状態になり、西原清一氏が退職し、

関東から復帰し、二代目会長に就かれて復活を目指す旧会員の高齢化でゼニーツを頼りにしている。ヒノコ小屋では蛭に4～5人が吸血経験をした。

比叡山に登り延暦寺の根本中堂にも参った。修行は東塔無動寺明王堂を根拠として山中山下の霊地を巡礼し、三塔十六谷一日数拾壺をひたすら歩き、西は京都市街、東は我々が最初に参った日吉神社にも行者は渡る。百日回峰を終えたもののうち、特に選ばれた者が千日回峰を七年掛け行ずる。武奈ヶ岳の登山口葛川(かつらかわ)坊村には明王院(みょうおういん)がある。開基は延暦寺で修行し、天台座主円仁の弟子相応和尚で回峰行の祖といわれる。859年、天台修験の道場として開き、参籠修行の場で滝行もあり、この「夏安居(げあんげ)」が済まない「満行」と認められない。桂の古木を削り千手観音に仕上げている。天台行者だけでなく、一般の人も参籠し、足利義満が大行列で参籠し、文明2年と長享元年の二回日野富子と息子の足利義尚も参籠している。京からは大原を経て、途中越と花折峠の二つを越え、京都「葵祭」に欠かせない「鯖寿司」の、若狭小浜からの「鯖街道」でもあった。明王院の本堂の屋根はトチノ木葺である。かつては叡山の根本中堂もトチノ木葺であったが、現在は瓦になった。

帰路で大原三千院に寄ると、幟に「惟喬卿回忌」とあり、近くに惟喬親王の墓が在る。天皇になれなかった惟喬親王が轆轤を発明し、木地屋に教えた、と戦国時代から伝承されるが、単なる伝説である。

しかし、京都北山と東近江が木地屋の根源の地であろう。流浪の民である木地屋はここから、東へ、西へと材料である良木を求めて出て行った。椀や盆などの材木が枯渇すると移動する。かつて、「防長木地屋の考察」を発表したが、私に対談した木地屋の子孫は、遠い先祖が京都を出て山陰側の背梁をたどり山口県佐波郡まで来て、大原ダムの建設で追われ下流に移り、現在でも屋号は「木地屋」であった。

こうした家族ぐるみの移動で九州まで来ている。英彦山も、深倉峡に木地屋の住居跡があって、英彦山土産を作っていたようである。みやこ町の帆柱茶を作る集落は、かつては木地屋集落であった。木地屋の姓は「小椋」「小倉」「大藏」が多く、惟喬親王の家臣の流れといい、東近江市永源寺町が元で、江戸時代には全国の木地屋を廻りお礼を配り寄進を募る人たちが居て『氏子駆帳』が記された。皆子山の北西には「杓子屋」の地名も残り、杓子を手造りする集団が住み着いた時期があって、北山杉が植えられる前は広葉樹林の多い山域であった。

武奈ヶ岳登山では、私がウェストバック一つで登っ

たので周囲から奇異の眼で見られたが、自己責任での判断である。今夏からの暑さに耐え兼ねる体になり、傘とポンチョが多い。頂上まで運び上げた物で全く使わなかったのは、刃渡り15㍓の小鉈とアルミレスキューシート、下山して、水が少々、穀物系行動食の残りと5㍓のチョコレートが5片、チューインガム7片が残った。私の単独行では「ウルトラライト登山」で、他人には勧めない。

素晴らしい山旅であった。人の営みが歴史として残る、北山比良は素晴らしい。最後に、北山クラブ西原会長、ゼニーツの4人には小屋での歓待、武奈ヶ岳のガイドとお世話になり、今度は皆さんが山口九州に来てください。私も次は、鈴鹿山脈を歩いてみたい思いが湧いてきた。

参加者：13人

会員：内藤正美(CL)、井上佑、赤瀬榮吉、森義雄、大谷恵美子、

支部友：加藤信子、ビジター：7人

山行では他3人にお世話になった

9月11日(日) 右田ヶ岳(426㍓) 暑さに負けて、反省と自覚 14079 内藤 正美



写真：右田ヶ岳

9月11日月例登山が中止になったので、急きょ個人山行として山口県防府市の右田ヶ岳からの縦走を計画。赤瀬さんがリーダーとなり11人参加で実施しました。

午前9時に集合し、9時15分勝坂登山口から入る。地形図で確認しながらのんびり歩く。曇り予報に反し、強い日差しが照りつける。少しの登りで汗が噴き出でくる。先日の親子登山の風師山より暑く感じる。尾根コースを選択したので、両手を使い岩場を登っていくことになる。

初めての人は大喜び。大岩壁では少しばかり岩を登って遊んでいると、先頭を歩くサブリーダーの蔵弘さんが、予定時間の倍かかっていると心配してい

る。このころから次第に私の体調がおかしくなる。

以前祖母山で経験した熱中症になりそうな気がする。汗をかいても体温が維持出来なくなってしまう。町元さんの話では血糖値のせいのこともあるらしい。途中風通しの良い鞍部で一人休ませてもらう。遅くなったので山頂で昼食にするとこのことで、のんびり遅れて山頂へ到着。

皆さんにご心配をかけたしまった。たまたま地元の子友が登ってきており、皆さんと別れ塚原登山口に下山する。最近登りはスタミナがなく、やっとの思いで歩くことが多いが、下りは下山家と自負しているくらい歩けるはずなのに、わずか30分の下りで2回休憩し1時間もかかってしまった。皆さんと行動を共にしなくてよかったと安堵する。

以前登った祖母山の折は昼前に尾平登山口を出発してすぐにくさい汗が噴き出できたが、熱中症の自覚はなく、体調が悪いと思いながら、宮原にやっこのことで登ることができた。夕刻になっていたので、気温も下がり風もあるので、一人横になって休んだ。今思えば、もし下山していれば、重症になっていただろう。深夜には山頂に満月を眺めに登るまで回復した。

この時の経験があったから、今回早めに自覚して安全な行動ができた。ただ下山後温泉入浴をしたあと夜まで体が熱っぽく感じた。

年を重ねてくると、思わぬことが起こる。残念ながら、若い時とは別人なのだと納得せざるをえない。

個人山行であろうと団体行動であろうと登山はすべて自己責任だと思う。体調管理はもとより歩行中も自分の責任で行動しなければならない。他人任せでは山に入る資格がないと思う。安全に山を楽しむためには知識を深めるとともに経験を積むことが大切だと反省している。

参加者：11人

会員：赤瀬榮吉(CL)、歳弘逸郎(SL)、縄田正芳
縄手修 山中秀正、内藤正美、大内喜代子、
大谷恵美子 町元里香

支部友：藤原玲子、藤井恒介

9月15日(木)

《三高山小屋での中秋の名月鑑賞会と馬見山登山》

北九479 網塚 陽子



写真：三高小屋

9月15日 天気：曇り

午前9時30分までに参加者8人、馬見山登山口に集合。少し蒸し暑かったが登山口付近に小川が流れて水面を見ると心が晴れた。せせらぎを耳にしながらか登っていくと、あちこちに苔むした岩や木々が見えてきた。その美しさに、まむしが出ると注意を受けていたことを忘れるぐらい癒された。登りはじめて2時間、大きな岩が現れた。「御神所岩」だ。その立ち姿に圧倒されながら、自然に対する畏敬の

念さえ感じた。

そして正午に頂上に到着。頂上は朝倉市と嘉麻市の2カ所あり、高島会員の説明を聞きながら異なる景観を楽しんだ。

下山後は、三高山・山小屋にて観月会のため「すきやき」の準備をしながら、山の管理を行っている話を高島さんに興味深く伺った。その後お月さんは残念ながら顔を出さなかったが、楽しい宴になり参加した方々は皆さんいい笑顔で、忘れられない一日となった。

最後に、観月会の準備と登山口まで何度もご足労頂きました森さん、本当にありがとうございました。

参加者：14人

会員：榊俊一(CL)、高島拓生、馬場基介、
赤瀬榮吉、歳弘逸郎 大谷恵美子、森義雄、
町元里香、支部友：藤原玲子、網塚陽子、
坂本明広、三宅明子 出水貴之、大塚浩美

9月3日 岩登り講習会 陶ヶ岳

15387 森 義雄



写真：陶が岳

岩登り講習会は、6月雨のため中止で今回は山口県の陶ヶ岳で行われました。参加者13人。午前中は、セミナーパーク

施設内のボルダリング、約12mのリード壁で練習を行いました。上部に上がるつれてオーバーハングとなり、最後部までに到着したのは、竹本正幸会員、中畑智子支部友のみで難易度の高い技術が必要でした。午後からは、陶ヶ岳の国体コースの岩場を中心に3班に分かれ、練習となりました。初めての参加者もいて、岩場途中でルートがわからず、上からの指示



写真：セミナーパークリード壁

登るルートがわからず、岩場上からの指示を仰ぎながら登ることもありました。岩登りの技術は、3点支持で登るのですが、ホールドの持ち方、足の置き方、動きのバランスが必要です。安心して山に登るためにもぜひ岩登り講習会を経験してみることをお勧めします。

参加者：13人

会員：武永計介、竹本正幸、竹本加代子、
縄手修、森義雄、歳弘逸郎、支部友：中畑智子
ビジター：6人

**ポレポレ山行 7月21日(木)岳切渓谷
木漏れ日、涼風の中の溪流歩き
15138 縄田 正芳**

午前9時少し前に道の駅おこしかけにて、北九州からと山口からのグループが合流。道の駅は東九州道の開通の影響か、立ち寄りの車の数も少なく、かつの賑わいがなく少し淋しい気がしました。買い物等をすませて岳切渓谷を目指す。渓谷の位置関係が分からず、先導の車の後を耶馬溪の山の中へ中へとついて行きました。随分と奥深くまた高度を上げて入ったところに、ひょっこりと売店の建物と駐車場が見えてきました。そこが岳切渓谷の入口でした。

車を降りさっそくズボンと靴をゴム草履に履き替えて溪流に入る。川幅もあり流れもゆるやか。川底は平らで大きな一枚岩の岩盤。ところどころに窪みはあるもののほとんどは10cmから20cmでくるぶしまでの深さでした。頭上からは爽やかな木漏れ日が差し込み、水面はキラキラと輝き、また流れのところどころにはナツツバキの花が浮かんでおり幻想的な雰囲気を感じていました。大飛の滝までの1時間余り、ひんやりとした流れの中を童

心に帰りひたすら水遊びを楽しみました。また下界の暑さを忘れさせる別天地でした。当日はまだ夏休み第一日目ということで子供たちの姿はあまり見かけず、静かな溪流歩きをすることができましたが最盛期は大勢の子供たちのあげる歓声で大賑わいだったとのこと。

2時間余りの溪流歩きの後は近くにある西椎屋の滝へ。滝の下に降りて見上げる予定でしたが山道は4月の熊本地震の影響か、通行禁止になっており展望台からの眺望でしたが、梅雨の雨を集めての落差86mの滝は迫力のあるものでした。昼食の後安心院(あじむ)のワイナリー見学へ。美しい杜の中に配置された醸造工場、充填工場などをまわりショップにてアイスクリームやワインの試飲や土産物の購入などショッピングも楽しみました。

帰りの道は車窓よりうわさに聞く大分のマチュピチ風景を、また地元の民家の鏝絵、古くからある石橋なども見ることができました。盛りだくさんの楽しい山行でした。

参加者：8人

会員：原広美 丹下洽 大木康子 丹下香代子
大谷恵美子 縄田正芳 町元里香
支部友：藤原玲子

**ポレポレ山行 8月20日~21日
矢筈山テント泊キャンプ
北九469 藤原 玲子**

8月20日(土) 晴れ

矢筈山でのキャンプに参加しました。キャンプと言えば小学校以来です。国東半島の真ん中に位置する両子寺で飯盒ご飯を炊いて、カレーライスを作って食べたことを思い出しました。その時は、テントではなく両子寺のお堂で寝ました。

午後2時過ぎに小森江少年自然の森公園に集合し、ここから車で少し上ったゲートに車を置きそこから20分歩いて登りました。矢筈山のキャンプ場は、軍用に作られた壕やトンネルなどがあり、それを利用してキャンプ施設にしているそうです。管理棟のすぐ横は、展望台になっていて、そこから関門海峡が見渡せます。左下は門司駅、その向こうの左から右にかけては小倉や、戸畑の臨海工業地帯が見え右には下関の彦島が見えます。

夕食は、景色の良い場所で決まりです。広い炊事場に、冷蔵庫や製氷機も揃っているのにびっくりしました。池田さんが、サラダ、こんにゃくの刺身、オクラの胡麻和えをたくさん作ってきてくれてみんなでご馳走になりました。焼きそばも鉄板で作る具がたくさん入って、温かくとても美味しく食べました。展望台から見る夕日が最高にきれいであたりが薄暗くなると、今度は夜景がきれいです。その雰囲気の中で皆さんお酒がどんどん進みます。みんなで「山の讃歌」の本を見ながら、坊がつる讃歌等を歌い、まるで昔の若き時代にタイムスリップしたようでした。

参加者の皆さん、準備や後片付けありがとうございました。そして、特に準備、お世話して頂いた丹下さんご夫妻、池田さんありがとうございました。

参加者：11人

会員：丹下洽、丹下香代子、井上禮子、
関口興洋、原広美、馬場基介、大木康子、
池田智彦、森義雄、町元里香、支部友：藤原玲子

8月21日(日) 第2回山岳専科 山頂での景色を見ながら地図読み 北九491 大塚 浩美



写真：血倉山山頂

8月21日(日)山岳専科技術講習会に参加しました。第1回目と同じく血倉山ケーブルカー山麓駅駐車場に集合し、指導員・研修生とグループを作りビジターセンターまで登りました。

今回は読図・登山計画書がテーマです。登る前に地図をいただき、午前9時現在地を確認しながら登ります。

山頂ビジターセンターに到着、園川顧問の講義で登山計画・登山準備の重要性を教わりました。

「登山計画がきちんとできていないと事故の対策ができない。計画を皆が知っておかないといけない。」という言葉が強く残っています。今まで私は連れて

行ってもらった登山、リーダーまかせの登山をしてきたため、これでは確かに何の事故対策もできません。

園川顧問の話が面白くてすごくためになるので、記憶に残りやすくとても勉強になりました。

講義の後に昼食をとり、血倉山山頂へと移動し、実践として読図の勉強を行いました。まず、地図の注意書きに磁針方位は西偏約7.0°と書いてあるのでコンパスの目盛りをずらして磁北線を引き、4センチごとに線を引きました。そして地図上の分かりやすい目標物を二カ所選びコンパスを使い実際の二カ所の場所の方角を特定し、そこから現在地を知ることでした。

私自身が山を始めたばかりの素人なので、地図の見方、磁北線の引き方、コンパスの使い方等々、何もかも分かってないところを同じグループの指導員が根気強く教えていただき、申し訳れなかったですが、今回はたくさんの方が学びました。

せっかく教わったことを忘れないように地図を持って登山する習慣をつけて、連れて行ってもらった登山者から脱却したいと思います。

園川顧問、指導員の皆さま本当にありがとうございました。

受講者 14人

講師：園川陽造

会員：竹本正幸、竹本加代子、森本信子、
縄手修、森義雄、歳弘逸郎、三浦利夫、
山中秀正、町元里香、

支部友：藤原玲子、村上正治、廣木秀利、
三宅明子、大塚浩美

9月4日(日) 第2回指導員研修 15616 奥田 スマ子



写真：血倉山ふれあいの家

9月4日(日)血倉山「ふれあいの家」において、今年度第2回目の指導員研修が開催され、台風接近が心配されるなか1期生5人、2期生3人、3期生2人人が出席しました。

今回は危険な場所での安全確保を主なテーマとして、午前は「落下回避するにはどうするか」につい

て机上講習。午後は3人の班に分かれてパーティを組み、岩場を想定してスタテックビレイ実技を行いました。ビレイヤーは相手が落下しても、途中で静止できるようにする必要があります。高い位置にある支点から伸びている弛んだロープを手繰り寄せするなど、ロープの扱い方を学習しました。セルフビレイしながら相手のことも考慮するには、ビレイもより高度な技術と判断力が要求されます。そして何より信頼できるチームワークが大事だと改めて痛感しました。

クライミングの知識、技術習得は時間の経過とともに忘れることも多く、遅々とした歩みを反省するばかりですが、気持ちを奮い立たせ、これからも技術の習得に取り組んで参りたいと思います。

受講者 10人

講師：園川陽造

会員：竹本正幸、竹本加代子、赤瀬榮吉、
森義雄、三浦利夫、山中秀正、奥田スマ子
町元里香、清家幸三、支部友：三宅明子、

寄稿

第二次彦山合戦再び大友府蘭と戦う

11454 井上 佑

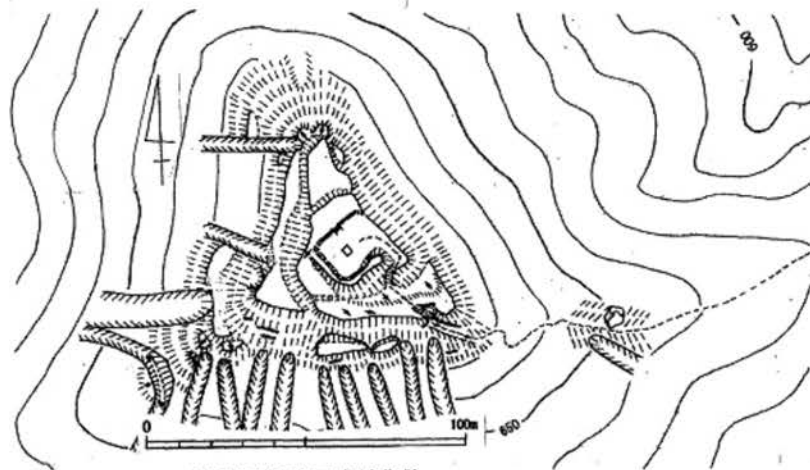
彦山衆徒は、永禄12年(1569年)の敗戦から大友宗麟に従ってきた。天正3年9月18日、彦山座主舜有は大友三位公と玖珠温泉で対面したが物別れに終わり、大友家から座主後継者要求は続いた。南では島津義久が日向に侵攻し、伊東義祐は豊後に逃げ、大友宗麟を頼る。天正6年(1578年)、大友義統は、島津軍を抑えるべく、分国からも集めた兵4万で日向に出陣し初戦は勝つ。8月、ドン・フランシスコ(宗麟改めて府蘭)は宣教師を伴い、船で日向の務志賀(延岡市)に本陣を置き、神社仏閣を焼き、教会を建てた。11月12日、高城(宮崎県木城町)で死者数千人を出す大敗で豊後に逃げ帰る。「耳川の合戦」と呼ぶのは誤りで、主戦場の「高城川(たかじょうかわ)合戦」が正しい。筑後一の宮高良大社の座主は薩摩軍に捕らわれ、身代金が届いて釈放された。

大友家は織田信長に、毛利家を討てば長門、周防二国分与を約束されたが、前将軍足利義昭は、毛利輝元の援助で上洛するべく、島津・龍造寺・原田・秋月・宗像・麻生・長野・城井氏や大友配下の武将にまで御内書を送り、大友家に反抗を指示した。大友軍大敗の報は全九州に広まり、大友に反旗を翻すものが続出した。12月には古処山城の秋月種実が、日田郡に侵入し大友側日田衆と合戦になる。黒川院も危うくなり座主一家は彦山に登る。座主側近の杷木の領主、乙石刑部、中村の両名が秋月側に寝返った為で、黒川院も焼かれた。翌天正7年正月、和議が成立し、黒川・佐田・菱野・白木の4村が秋月種実に割譲され、黒川座主院は廃止され、種実の三男

竹千代が舜有の養子になる。大友家は落ち目で、敗戦処理のため大友府蘭は丹生島から府内に拠を移していた。肥前を統一した龍造寺隆信と同盟を組む秋月家は隆盛期を迎えていた。大友義統からは、第三位公を養子にと使者が来るが殺し、大友義統は立腹した。12月、国東の田原親貴が謀反を起こし、続いて田北紹鉄も反乱を起こし鎮圧に手間取る。秋月家24城の一つ、木村甲斐守が守る朝倉郡那木の長尾城を大友軍千五百が攻めたが、守り切った。

天正9年(1581年)10月8日朝、大友軍が彦山に攻め登って来た。戸次鎮連を大将とし、先鋒が日田衆の三千は、日田から岳滅鬼峠を越え、高岩(黒岩山、878[㍔])に陣取り、臼杵鎮直、宗像鎮次等三千は山国から薬師峠を越え別所口に陣を張った。夕方には彦山坊中に乱入し焼討ち、上宮・各神社・堂塔・文庫・経蔵・坊舎等全て焼落ちた。彦山座主舜有以下彦山衆は上仏來山(かんぶくやま、687[㍔])に秋月兵の指導で築城し籠城した。秋月種実は少年時代に周防山口で毛利家に匿われた事もあって、上仏來山城は畝状堅堀を有する毛利型系の山城に仕上がったが、余りにも小規模だ。大友側は鉄砲を打ちかけ彦山衆は柵を構え耐えた。

三位公はキリシタンに入信し「パンタレアン」になり、武蔵田原家を継ぎ、親盛を名乗り、彦山と縁は切れたはずである。11月には秋月種実が麻底良城に入り、20日、秋月、龍造寺の連合軍が豊後境の針目山城(488[㍔])に入り日田を窺い、彦山を庇う。大友側は彦山占領軍を日田に戻し、秋月、龍造寺軍



上東仏山城調張り図(開寺作成)

大友側は彦山占領軍を日田に戻し、秋月、龍造寺軍に向かわせた。針目城は一時大友方に落ちたが、原鶴合戦後に再び秋月側が取り返した。替わりに彦山高岩陣に入ったのは柴田礼能で、礼能は宣教師が「東洋のヘラクレス」と称したほどの体格で槍の名手でもある。秋月家も彦山に援軍を送り、日田境での小競合いと共に膠着状態が続く。赤尾鎮辰(宇佐衆)への感状では、天正10年正月16日、大友の日田、玖珠衆は、秋月と彦山衆が守る小石原の松尾切寄を攻撃した。小石原は交通の要衝であり、秋月から彦山へ兵糧を運ぶ重要な要地であり、秋月、彦山側にとって大友側に渡せない地点だが、数に勝る大友軍が勝利し、彦山への兵糧は嘉麻郡経由で送ることになる。3月、彦山座主舜有の娘、御縁姫が秋月種実の嫡男種長に嫁ぎ、生まれた子をのちに彦山座主とする約束が成立する。

天正12年3月24日、龍造寺隆信率いる三万の大軍は、肥前島原沖田礮の狭いあぜ道を防禦の楯や竹把を捨て突進し、大木戸で足止めされたところに島津家久の三千余、有馬晴信五千が鉄砲玉や弓矢を浴び

せた。動けない龍造寺兵に鏑隊が突っ込み殺戮し、隆信をはじめ龍造寺四天王も討死した。跡を継いだ龍造寺政家は秋月種実と彦山座主舜有に仲介を乞い、島津家の軍門に下った。これにより九州三国志は、島津と大友の二強が残り、秋月と彦山は薩摩方になる。筑後川の筑前筑後と豊後の境を取り合う戦いは続いて、秋月家と大友家共に譲らない。彦山の太友軍は引き揚げ、柴田礼能は臼杵丹生島城外で薩摩軍に討たれた。天正13年3月秋月種実の三男竹千代が初めて彦山に登り、坊ごと順に御目にかかった。大友領国は島津家の侵略を受けており、彦山に構ってははいられない、この合戦は6年もかかった。上仏來山頂は後年には上津神社になり、建立された毘沙門天像が足下にしているのは、大友府蘭とされている。

第一次彦山合戦は大友家の隆盛期に当たり、彦山側があえなく敗退したが、第二次合戦は大友家の衰退期と重なり、秋月家と提携したので、被害は大きかったが敗退はまめがれた。

寄稿

「マダニに噛まれ8千回の福智山」

13819 太田 満



毎年、7月になると福智山の登山道に繁った夏草を、各自が自主的に、それぞれの道具で刈り取り作業を行っている。

私も20年以前から、草刈機で参加していたが、今年は鎌で2日間刈り払った。

異常に気が付いたのは、草刈りから4日後の入浴時だった。右脇腹に、血を吸って米粒みたいに太くなったマダニが噛みついてた。

平成26年にも北アルプス、餓鬼岳登山でマダニに噛まれたことがある。タバコの火をあてると放れると聞いていたので、その時はライターの火を

当てたが、自分が熱いだけで放さない。仕方なく爪切りで胴体を切り、咬み込んだキバは安全ピンで掘り出して除去した。

ウイルスに感染したマダニに噛まれると、死亡率が30%近いと聞いていたので、今回は病院で除去してもらった。抗生物質を7日間服用したが、その間は体がだるかった。

実は、平成18年9月に福智山登山5千回に達して以来、今年の7月中に8千回登山を終えて、立山・剱岳・大日岳を予定している。

体がだるい間は、時間を日常より30分余分に掛けて登り続け、7月22日8千回登山を終えた。

通過点の8千回なので、5人の仲間と写真を撮ったのみだった。

5千回から8千回までの10年間は、少ない年で270日、多い年で338日のペースで三百名山と並行して登り続けた。最近の三年間は280日程度で、登山日数は減っているが、三百名山を終え、長期間の遠征も無くなるのでこれからは、毎年300日登山は出来そうだと思います。

◇◇月例山行のご案内◇◇

支部会員、支部友会員による県外山行
(北九州支部エリア外)は「登山計画書」
を必ず事務局に提出しましょう。

11月の山行

●宮崎ウエスタン祭

1. 式典

(1) 日 時：平成28年11月3日(木・祝日)

受付15:30～ 式典16:00～

(2) 場 所：宮崎県高千穂町五ヶ所高原
「三秀台」

(3) 集 合：五ヶ所公民館15:00

2. 地域交流会

(1) 受付：午後5時30分から

(2) 神事：午後6時から

(3) 場所：高千穂町五箇所集出荷センター

(4) 催し物：伝統芸能、バザー、特産品展示即
売、キャンプファイヤーなど

3. 記念山行 11月4日(金)

祖母山登山(1756.4m)約6時間

4. 宿泊場所：五箇所公民館(ひめゆりセンター・ 寝袋持参)

5. 参加費：3000円/人(宿泊、交流会、朝食、 昼食弁当代等)

6. その他

3日午後8時～9時30分まで、五ヶ所公民館に
おいて、日本山岳会会員・九州5支部会員・
地元代表者との交流会を開催します。

7. 参加申込み期日

締切り：10月20日(木)

申込み：内藤正美(TEL083-922-3884)、
竹本正幸(TEL0930-28-9611)

●第3回指導員研修

講師：園川 陽造

リーダー：山中秀正

と き：11月13日(日)

集合場所：血倉山(ふれあいの家)

集合時間：午前9時

内容：血倉ふれあいの家にて講義など

携行品：一般登山装備及びクライミング装備、
昼食、筆記道具他

申込み：山中秀正(携帯080-2754-8370)

締切り：11月6日(日)

●津波戸山(529.4m)

リーダー：竹本加代子

と き：11月20日(日)

集合場所：杵築市山香町向野地区

登山者用駐車場

集合時間：午前9時

行程

登山者用駐車場～海蔵寺跡～西岩尾根巡拝路

～津波戸山～大師像～東岩尾根巡拝路～

海蔵寺跡～登山者用駐車場

(歩行時間 約5時間)

装備：一般登山装備

申込み先：竹本加代子(携帯090-9253-1260)

締切り：11月13日(日)

●第3回山岳専科

講師：園川陽造

リーダー：三浦利夫、サブリーダー藤井信義

と き：11月27日(日)

集合場所：血倉山ケーブルカー山麓駅駐車場

時間：午前8時30分 ※前回より時間変更

会場：血倉山ビジターセンター

内容：気象、その他

装備品：通常登山装備一式・筆記具・昼食

申込み：三浦利夫(携帯090-2850-6020)

締切り：11月20日(日)



平成29年1月の山行

●第4回山岳専科

リーダー：三浦利夫、サブリーダー藤井信義
 と き：1月15日(日) ※当初日程より変更
 集合場所：血倉山ケーブルカー山麓駅駐車場
 時間：午前8時30分 ※前回より時間変更
 会場：血倉山ビジターセンター
 内容：レスキュー、その他
 装備品：通常登山装備一式・筆記具・昼食
 申込み：三浦利夫(携帯090-2850-6020)
 締切り：1月8日(日)

●冬山合宿：テント泊

安蔵寺山(1263^米) 島根県津和野町

リーダー：内藤正美
 と き：1月21日(土)～22日(日)
 集合時間：午後1時
 集合場所：山口県庁駐車場集合
 行程
 21日 午後1時山口県庁駐車場集合～国道9号線
 ～安蔵寺山高尻登山口ゴギの里
 到着後、テント設営、
 宿泊：夜は鍋をつつきたいと思います
 22日 登山口発7:00～10:00山頂～下山口着
 14:00
 下山後、六日市か柿の木の温泉入浴
 装備：冬山の装備(防寒具含む)、スノーシュー
 (わかんでも可)、ストック(ピッケルでも可)
 は必ず持参、テント泊のためシュラフ等宿泊用
 装備は要
 ※積雪の状態でも変更もあります。
 申込み先：内藤正美(携帯090-8993-0239)
 締切り：1月10日(火)
 ※参加者が決まり次第、ルームにて打ち合わせ
 をします



会 務 報 告

●平成28年7月定例役員会議事録

日 時：平成28年7月6日(水)18:00～20:15
 場 所：当支部ルーム(毎日会館1F)
 出席者：関口興洋、日向祥剛、磯野文雄、
 竹本正幸、内藤正美、丹下洽、大木康子、
 丹下香代子、縄田正芳、縄手修、森義雄、
 馬場基介、池田智彦
 欠席者：武永計介、大内喜代子

議 題

(1) 会員の異動状況

- ・ 通常会員：73人(73人)、入会者：なし
退会者：なし
- ・ 支部友：44人(46人)
入会者：なし、
退会者：小濱隆(6/10) 森サエ子(6/15)
- ・ 会友：4名 計：121人(123人)

(2) 会費納付状況

通常会員：未納者13人、支部友：未納者12人

(3) 山行・行事報告

- ・ 5月19日(木) さいわい幼稚園ハイキング
8人参加 (丹下)
- ・ 5月22日(日) 戸ノ上山にて体力測定
29人参加 (磯野)
- ・ 5月28日～29日英彦山山開き
28日：6人参加、29日：9人参加(丹下)
- ・ 6月2日(木)、弟見山8人参加
- ・ 6月5日(日) 第1回指導員研修会13人参加
- ・ 6月12日(日) 福智山(雨)9人参加
- ・ 6月12日(日) 平尾台一斉巡視は雨天のため中止
(8人参加予定)
※一斉巡視は、ポレポレ会と合同で実施しても
良いのでは・・・
- ・ 6月19日(日) 平尾台岩登り教室は雨天のため中
止 (14人参加予定)
- ・ 6月25日(土)～26日(日) 夏山フェスタin福岡
- ・ 7月3日(日)内住峡沢登りは、河川増水のため延期
※ 岩登り、沢登りは、時期を考えて梅雨明け
後にしては・・・

(4) 山行・行事計画

- ・ 8月3日(水)～9日(火)
山の文化展(旧門司税関ギャラリー2階)
- ・ 8月11日(日)
「山の日」家族登山(風師山～矢筈山)(丹下)
- ・ 8月21日(日) 第2回山岳専科(三浦)

- ・9月3日(土) 陶ヶ岳岩登り教室(武永)
- ・9月4日(日) 第2回指導員研修(山中)
- ・9月11日(日) 涌蓋山(赤瀬)
- ・9月24日(土) ~25日(土)
支部長・事務局長西日本地域合同会議(大阪)
- ・計画の変更
- ・7月10日(日)第2回山岳専科は8月21日(日)に変更
- ・8月28日(日)第2回岩登り教室(陶ヶ岳)は、9月3日(日)に変更
- ・11月6日(日) 第3回指導員研修会は、11月13日(日)に変更。
- ・10月2日(日)第3回山岳専科は、11月27日に変更
ポレポレの会
- ・5月19日(木) 万年山 ミヤマキリシマ
- ・6月5日(日) 平尾台
- ・7月21日(木) 岳切渓谷
- ・8月20日(土)~21日(日)矢筈山キャンプ暑気払い
※8月のカシ米尔講習会は下記に変更
- ・9月7日(水) 15時~
講習会(スマホによるGPSの使い方)
講師:吉田会員

審議事項

- (5) 8月3日~9日
山の文化展進捗状況と今後の課題
 - ・大谷城氏の写真借用10点(竹本保管)
 - ・穂刈康治氏の写真は7月25日頃到着予定
 - ・予算:穂刈さん写真郵送代(片道2万円×2)
準備品(1万円)=5万円
 - ・オープニングセレモニーの挨拶依頼
(門司区長・毎日新聞)
 - ・準備作業次回7月11日(月)13時~ルームにて・
スタッフは駐車券を発行
- (6) 8月11日「山の日」家族登山(丹下)
 - ・下山後のアンケートを実施
 - ・予算:スイカ(3,000円×2)+アイス
その他 → 1万円
 - ・家族登山の案内を門司区報と毎日新聞へ掲載
 - ・記念品配布:シャーペン74本(信州の会)、
ボールペン30本(毎日新聞)、
シール100枚(門司区役所)
- (7) ルーム当番の参加依頼:役員の方は、月に
1日でも参加して下さい。月曜日~土曜日まで
- (8) 「入会案内パンフ」と「山の日を知らう」
パンフの活用
- (9) トイレ協議会運営委員会の報告:
6月16日役員会、7月2日総会
- (10) 日本山岳協会「登山月報」購読について

- 北九州支部として1部購読12か月分=1,300円
- (11) 登山届提出義務
(長野県・岐阜県・富山県・群馬県)
- (12) 広島支部との交流会:10月8日(土)~9日(日)
高岳周辺 宿泊地は八幡高原
- (13) 九州5支部懇談会の日程と場所
H29年5月20日(土)~21日(日) 海峡ビュー
ホテル 風師山~矢筈山で計画を進める。
- (14) 7月19日(火) 18:00福岡市のラリーグラス
で「山の日」記念登山の打合わせ会
(関口、磯野)
- (15) 8月11日の「山の日」記念登山が英彦山、宝
満山、風師山の三箇所で行われるが、この記
念行事に関連したパンフ、資料などの印刷、
参加者への飲料提供などに要する経費として
10万円を見積もっている。これを主催五団
体で均等負担(2万円)となる。
- (16) マナスル登頂にちなみ、5月9日を「榎有恒
祭」として毎年実施しては・・・(支部長提案)
風頭に登った日10月に「榎有恒祭」を実施
する方向で門司区、地元山岳会と検討。
当時、安川電機・出光興産に榎有恒が訪問し
ているので後援等の依頼も検討しては・・・
- (17) 支部報は、20日頃発送予定。
- (18) その他意見
 - ・個人山行の参加者募集と声掛けについて
 - ・会員数の減少:160人程いたが現在は121人
に減少している。支部友の減少が大きい
 - ・高齢化、山行計画等の要因は考えられるが、
支部友に対しては紹介者が責任を持ってフォ
ローしていくように。
役員は積極的に入会呼びかけを実施していく。

次回役員会は、9月7日(水)の予定です。

以上

●平成28年9月定例役員会議事録

- ・日 時:平成28年9月7日(水)18:00~20:00
- ・場 所:当支部ルーム(毎日会館1F)
- ・出席者:関口興洋、日向祥剛、磯野文雄、
竹本正幸、内藤正美、丹下洽、大木康子、
丹下香代子、縄田正芳、縄手修、森義雄、
馬場基介、武永計介、大内喜代子
- 欠席者:池田智彦

議題

(1) 会員の異動状況

- ・ 通常会員：72人(73人) 入会者：なし
退会者：13987 宮城尚志
- ・ 支部友：44人(44人)
入会者：北九496 横山秀司
退会者：北九474 藤田佳代
- ・ 会友：4名 計：120人(121人)

(2) 会費納付状況 通常会員：63人/72人

- 支部友：33人/44人 会友：4人/4人
- 未納者：会員9人 支部友11人

(3) 山行・行事報告

- ・ 7月21日 岳切溪谷(ポレポレ会) 9人
- ・ 8月3日～9日 山の日制定記念「山の文化展」
(旧門司税関ギャラリー2階) 来場者2007人
- ・ 8月11日山の日家族登山(風師山～矢筈山) 92人
- ・ 8月20日～21日矢筈山キャンプ(ポレポレ会)11人
- ・ 8月21日第2回山岳専科(三浦) 14人
- ・ 9月3日 陶ヶ岳岩登り教室(武永) 13人
- ・ 9月4日第2回指導員研修(山中) 10人
- ・ 9月7日勉強会(携帯スマホ)(15時～17時ルーム)
参加者12人 講師：吉田克己会員

(4) 山行・行事計画

- ・ 9月11日(日) 涌蓋山(赤瀬)シカ一斉捕獲日のため中止⇒個人山行・右田ヶ岳山行
- ・ 9月24日～25日支部合同会議(西日本) 大阪
- ・ 10月8日～10日広島支部との交流会(内藤)
- ・ 10月15日～16日九重・黒岳(九重沢水キャンプ場テント泊)(内藤)
- ・ 10月22日～23日石鎚山(三浦)
- ・ 11月2日～3日 宮崎ウエストーン祭
- ・ 11月13日 第3回指導員研修(山中)
- ・ 11月20日津波戸山(竹本加)
- ・ 11月27日第3回山岳専科(三浦)
- ・ 12月3日(土)～4日(日)本部年次晩餐会
- ・ 12月11日(日)忘年の集い(10日を11日に変更)、
山は足立山～小文字山
場所：「ラメール雅」に交渉する。
- ・ ポレポレの会 10月20日・11月17日

審議事項

(5) 山の文化展報告

- ・ 家族登山報告と反省点
大人数のため、あえて班分けはしなかった。
アンケートをとってはどうか。
支部会員は腕章を付けて分かるようにした。
風頭でのアイスを配ったのは非常に良かった。
火おこしは皆が喜んでやっていた。
スイカ・OS1はよく冷えていた。丹下さん池

田さん、前日からの準備お疲れさまでした。
来年はもっと早く準備にかかる。

・ 会計報告

(6) 九州シカ広域一斉捕獲の実施について

一斉捕獲日は入林しないように、捕獲実施区域については別紙参照(省略)

- ① 秋季 9月4日(日)、11日(日)、18日(日)
- ② 春季 3月19日(日)、26日(日)

(7) 計画書の提出について

Yahoo メールを利用してはどうか。
アドレス：jacktk で作成してみる。

(8) 九州5支部懇談会実行委員会

(案) H29年5月20日(土)～21日(日)
海峡ビューホテル 風師山～矢筈山
支部合同会議にて他支部と相談・調整する

(9) 10月8日(土)～10日(月)

広島支部との交流会の参加者募集
案内が届き次第メールにて会員にお知らせする。
安芸の聖岳、高岳周辺の山行
宿泊場所：斎山荘 締切り：9月20日

(10) その他

- ・ 横山秀司先生より本の寄贈
- ・ 「山に学ぶ」歩いて観て考える山の自然
- ・ 山の文化展報告書(20P) 伊藤顧問
- ・ OS1(大塚製菓・約200本)は、支部の行事で使用
- ・ 月に1回で良いので、ルームの当番をお願いします
- ・ 10月27日(木)山のトイレ協議会で「久住分れトイレ」の見学ツアーを行う。
バスハイク(天神)20人 会費4,000円(直接現地に行っても良い→磯野に連絡)
- ・ 支部報発行予定
発行は、10月10日予定

次回役員会は、11月2日(水)の予定です

以上

会員の異動

・ 支部会員

入会者：北九496 横山秀司

退会者：北九474 藤田佳代

くじゅう自然保護ツアー**秋 紅葉のくじゅうを歩きませんか**

主催：山のトイレ、環境を考える福岡協議会

視察山行のお誘い

と き 10月27日(木)

集合時間：午前8時

集合場所：福岡市天神日銀横

現地集合も可能です

行き先 久住山域(久住分かれ)

交通手段：バス

定員：20名(定員になり次第締め切り)

費用：4,000円

申込み先 太田 勝(携帯090-9607-7556)

英彦山山頂トイレ掃除日の予定彦山山頂トイレの清掃予定日は以下の通りです。
会員皆様のご参加協力をお願いいたします。

期日(平成28年11月～平成29年3月)

・11月23日(水) ・1月3日(水)

・2月15日(水) ・3月29日(水)

※参加できる方は、事前に事務局までお申し込み
ください。当日、英彦山別所駐車場に午前9時集
合し、山頂へ向かいます。**園川教室ビデオの販売**

「園川教室シリーズNo.5 のビデオ完成

テーマ：山中における一般的な救助技術と処置

- 自分の身体を脈の測定で科学する方法
- 低体温症
- 捻挫の処置と3分の1引き上げシステム
- ロープハーネス
- 参加者

伊藤久次郎、関口興洋、山田武史、原広美、
竹本正幸、竹本加代子、縄手修、大木康子、
森本信子、大谷恵美子、村田美和ほか
計13人。

- このビデオは、平成24年5月12日の血倉山
での記録です。
- 時間：1時間26分。
- ビデオご希望の方は、1枚200円でお分け
します。(申し込みは竹本まで)
(前回まで1枚700円でしたが、500円の支部へ
の寄附を取りやめましたので
残り実費200円だけとしました)

図書寄贈(ルーム蔵書)

●図書名：

- 1 「改訂 新日本山岳誌(日本山岳会編著)」
 - 年月日：2016年10月1日
 - 寄贈者：伊藤久次郎
支部長退任記念として
- 2 「山を学ぶ」横山秀司様

※寄贈ありがとうございました

サロンのお知らせ

場 所：小倉北区魚町「コール天」

★小倉サロンは毎月第4週の水曜日に
開催しています**小倉 サロン**

- ・10月26日(水) 午後6時から
園川教室シリーズNo.5 後編 40分
「山中における一般的な救助技術と処置」
- ・11月23日(水) 午後6時から
- ・12月は、ありません
- ・平成29年1月28日(水) 午後6時から

博多 サロン

- と き：11月10日(木) 午後6時30分から
- 場 所：居酒屋 甚六 ☎092-441-8686
福岡市博多区博多駅中央街3-11
(博多グリーンホテル2号館1階)
- 注) 場所を博多駅前に変更しました
- 申込み先：赤瀬 栄吉
(携帯090-7475-9748, Eメールで)

寄稿 磯野副支部長 第2回安全登山のために

第1回寄稿(平成28年4月支部報)既に発行
第2回 寄稿文 登山に必要な「総エネルギー量」・「水分量」P5~P6
を支部報78号と共にお届けします

編集後記

山の文化展が開催され、会場に多くの入場者が来場しました。約1年間前から、伊藤前支部長はじめ関口支部長、丹下会員ご夫妻、各会員のみなさんが準備され、当日を迎えました。会場には門司レトロ地区の観光で来場された方もいました。山の道具の展示では古い登山道具を珍しそうに眺め、何に使ったのか聞かれる方もいました。また、穂苅康治さん、大谷城会員の写真の美しさを会場のソファでしばし眺めている方もおられました。私は、写真を撮るのは時

間の記録として撮るぐらいですが、写真専門で撮影される方はあの重いカメラを抱えて、その絶景の場所でその瞬間を待ちながら登山するようです。

写真の構図や色合いなどがやはり違うようです。

そのような写真を撮られる方と一度一緒に山に登りたいなと思いました。

文化展で、出品された会員のみなさんご協力ありがとうございました。

文責：森義雄

居酒屋「コール天」

- 小倉北区魚町1-2-23 桧山ビル2F
- TEL:093-522-0565
- JR 鹿児島本線 小倉駅南口から中央銀天街方面に向かい徒歩5分

北九州支部は毎月(第4週水曜日)のサロンでお世話になっています



歌声喫茶を楽しむ会

毎月10日

時間 19時~

会費 2,000円

スナック

飲物・お菓子・果物等準備しております!

ぎんなん
銀杏

TEL.093-541-5516

童謡・懐メロ・寮歌・校歌・軍歌・ラジオ歌謡・山の歌

〒802-0004 北九州市小倉北区鍛冶町1-2-2(坪根ビル)